

間質性肺炎の診断・予後予測における機械学習の活用に関する研究の情報公開

1. 研究の対象

2007年4月～2017年5月までに公立陶生病院で間質性肺炎の診断を行うのに十分な検査が行われた方。

2. 研究目的・方法・研究期間

間質性肺炎は、肺の間質を炎症や線維化病変の場とする疾患の総称で、国の難病に指定されています。中でも、特発性肺線維症(IPF)は、肺の線維化が進行性に悪化し、生存期間中央値が2～3年と予後不良の疾患です。間質性肺炎の診断には専門的施設・専門医が集まって診断する事が重要とされますが、実際に本邦で実現可能な施設は限られています。また、近年広義の人工知能による医療への応用が期待されており、従来の検査の組み合わせによって間質性肺炎の診断を自動的に予測するモデルを構築できる可能性があります。

そこで、2007年4月～2017年5月に、公立陶生病院で間質性肺炎の診断を受けられた患者さんを、従来の検査の組み合わせで予測する方法を検討するため、該当する患者さんの診療情報を収集して、広義の人工知能を用いて解析を行います。解析は名古屋大学医学系研究科呼吸器内科学と理化学研究所で行われます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報(カルテ)から、年齢、性別、喫煙歴、原疾患、血液検査、画像検査、組織所見等の情報を収集します。

4. 外部への試料・情報の提供

収集した情報は定型化された電子データベースに研究者が直接入力し、電子媒体に記録する。電子媒体は特定の関係者以外がアクセスできない状態で保管され、研究責任者・研究協力者によって解析施設(名古屋大学、理化学研究所)に移送され、専門的解析を行います。

5. 研究組織

1 研究責任者(所属・職名・氏名)

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・教授・長谷川好規

2 研究分担者(所属・職名・氏名)

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・医員・古川大記

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・医局長・橋本直純

名古屋大学医学部附属病院呼吸器内科・病院助教・阪本孝司

3 共同研究者（所属・職名・氏名）

公立陶生病院呼吸器アレルギー疾患内科・主任部長・近藤康博

理化学研究所・画像情報処理研究チームリーダー・横田秀夫

理化学研究所画像情報処理研究チーム・客員研究員・大山慎太郎

公立陶生病院呼吸器アレルギー疾患内科・部長・片岡健介

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究分担者：名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・医員・古川大記

〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地 名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学

Tel: 052-744-2167

FAX : 052-744-2176

研究代表者：

名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学 古川 大記